

岩に刻まれた古代美術

アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン

Ancient Rock Arts on the Amur River Basin: A Sacred Place of the Indigenous People, Sikachi Alyan

2015年10月31日(土)～2016年1月11日(月・祝)

Saturday 31 October 2015 to Monday 11 January 2016

ユーラシア大陸の東端近くを流れるアムール川。岸辺に転がる不思議な文様を刻んだ岩の数々。本展では、岩の拓本や伝統的な工芸品を展示し、シカチ・アリヤンの岩画とそこに暮らす先住民族ナナイの生活を紹介します。



井出晃憲撮影 Photograph by Akinori Ide

会場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料 一般300円、小・中学生150円
Admission: ¥300 for Adults,
¥150 for primary and junior high school students



横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m. (券売は4:30 p.m.まで)
2015年4月1日から2016年3月31日まで、平日の水曜日は7:00 p.m.まで開館時間を延長いたします。(券売は6:30 p.m.まで)

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)
Wednesdays (except holidays) April 2015 to March 2016, 9:30 a.m.-7:00 p.m.
(Admission until 6:30 p.m.)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日～1月4日)他
2015年10月29日(木)、30日(金)、2016年1月29日(金)は、
展示替えのため休館します。

Closed Mondays (except holidays) and year-end/New Year's recess (28 Dec.to 4 Jan.), 29-30 Oct. 2015 and 29 Jan. 2016 (change of exhibition)

観覧料 一般200円、小・中学生100円
特別展・企画展開催中は料金が変わることがございます。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」、横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方には、
入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。

Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students



みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
JR「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」1番出口から
徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal Subway.

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

アートウォッチング
Art Watching 2

シカチ・アリヤンの「虎」
A Petroglyph from Sikachi Alyan

ギャラリートーク
Gallery Talk 4

泉州開元寺石柱のヒンドゥー神像
Hindu Images on the Stone Pillars
at Kaiyuansi Temple, Quanzhou

藏品紹介 一常設展示室から
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition 6

緑釉搔落文鉢
Bowl with Sgraffito Design Covered with Green Glaze

藏品紹介 一新収蔵資料
The YMEAC Collection: Recent Additions 8

催し物案内
Exhibitions and Events 10



岩に人面や動物などの図像の刻まれた岩画(岩壁画、岩刻画、岩面画)と呼ばれる遺跡があります。アムール下流域のシカチ・アリヤンの岩画は中でも有名で、19世紀末から多くの研究者たちによって紹介されてきました。

日本でも、古くは1924年に出版された鳥居龍蔵の著作『人類学及人種学上より見たる北東亜細亜 西伯利、北満、樺太』(岡書院)に写真が掲載されています。写真では、白墨のようなもので岩画の輪郭が描かれており、1枚は「馴鹿」、もう1枚は「虎」と記載されました。その後、後者については、ソヴィエト連邦の考古学者オクラードニコフによってヘラジカの胴体であることが明らかにされています。

なお、これらの写真は、鳥居が1919年にハバロフスクを訪れた際に贈られたもので、鳥居本人は現地を訪問しておらず、記載も伝聞によるものであったようです。

鳥居は「虎」の図像を気に入ったのか、前述の書籍の表紙デザインに使用しています。図像が魅力的であり、また鳥居自身の誤りではないだけに、ヘラジカが虎と記されたことが残念に思えます。写真を撮影した段階でなぜヘラジカの頭部が把握できなかったのか、実際はどのように図像が彫り込まれているのか、気になるところです。

2015年から2016年にかけて、国立民族学博物館、新潟県立歴史博物館、横浜ユーラシア

拓本採取。紙を貼り付け墨を打ち始めるとヘラジカの姿が浮かび上がってきた。筆者撮影。
Making a rubbing of the petroglyph. Photograph by the author.



写真から描きおこしたヘラジカ
The elk traced from the photograph.



文化館で巡回展「岩に刻まれた古代美術—アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」を開催、この岩画の拓本も展示することになりました。しかし、残念ながらこのたび展示する拓本では、ヘラジカの頭部が欠けています。そこで、この機会にこの岩画を実見し拓本を採ろうと、2014年11月、筆者はシカチ・アリヤンへ向かいました。

11月のシカチ・アリヤンはすっかり冬でした。雪を漕いでたどり着いたその岩に刻まれた図像は、確かに鳥居の掲載した写真のように見えました。頭部の彫りが浅いため光の具合によっては胴部しか見えず、肩に描かれた同心円が目、他の同心円は虎の縞模様にも思えます。しかし、雪を掻き落として拓本を採り始めると頭部の形が浮き上がり、虎と解釈された写真では脚と思われた縦方向の線も多数現れ、肋骨の表現であることが明瞭になりました。長い尾に見えたのは岩の剝離であり、他に鹿らしい短い尾の表現のあることも確認できました。

この拓本を展示しよう、90年前にこの岩画を紹介した鳥居へのオマージュとして。そう考えたのですが……。拓本はすっかり岩に凍り付いて剥がすことができません。気温が高くなれば剥がれるとはいえ、そのままでは遺跡を汚すことになってしまいます。結局細かくちぎりながら剥ぎ取ってゴミとして持ち帰ることになったのです。

Sikachi Alyan, Khabarovsk krai, Russia, is one of the most famous sites in Eurasia, owing to the presence of ancient rock art. This site, located along the Amur River has numerous rocks with petroglyphs of animals and masks.

From the 19th century onwards, archaeologists and ethnologists have referred to this site in their publications.

In 1924, Ryuzo Torii, a pioneer of anthropology in Japan, published two photographs of the petroglyphs of Sikachi Alyan in his book, which were thought to represent a reindeer and a tiger. Torii had not visited Sikachi Alyan himself; the photographs were given to him in Khabarovsk in 1919. From the 1930s onwards, A. P. Okladnikov investigated the rock art of this site and considered the tiger to actually represent an elk.

The Yokohama Museum of EurAsian Cultures has planned an exhibition entitled, "Ancient Rock Arts on the Amur River Basin: A Sacred Place of the Indigenous People, Sikachi Alyan."

In November 2014, the author visited Sikachi Alyan with the aim of making a rubbing of the petroglyph for this exhibition. The rubbing was intended to represent this accurately, paying due respect to Torii and Okladnikov. However, owing to the onset of winter at Sikachi Alyan, the rubbing froze and tore when peeled off from the rock.



ヘラジカの図像であることが確認されたシカチ・アリヤンの岩画。岩が転倒したためか天地は逆になっている。井出憲恵撮影。
Elk petroglyph on the rock at Sikach Alyan. Photograph by Akinori Ide

泉州開元寺石柱のヒンドゥー神像

Hindu Images on the Stone Pillars at Kaiyuansi Temple, Quanzhou

福原庸子 Yasuko Fukuhara

当館「江上コレクション」に新たに加えられた資料の中から、中国福建省泉州開元寺に伝わるヒンドゥー教の神々(拓本)を紹介します*。これらの神像は、国際港市泉州を訪れるインド商人の信仰対象であったことは推測されていましたが、国内外の研究者に近年注目されているのは、市内蕃坊(外国商人居住地)で大規模な共同体を成していた南インドのタミル商人との関わりです。蕃坊近辺でのシヴァ神(あるいはその寺院)の造立(1281年)がタミル商人によることを示すタミル語の石碑(泉州海外交通史博物館蔵)に加え、14世紀末の戦乱で破壊されたヒンドゥー教建築の石彫が市内で大量に出土していることや、開元寺石柱を含めたこれら石彫遺物の全ては12~13世紀のタミル地方の特徴(壁や柱の建築様式・石材)を留めていることなどから、商圈の広さを誇ったタミル商人が泉州に独自の文化を移植しつつあったことが窺われます。

以下に紹介する開元寺石柱の神々の種類もまた、タミル地方の伝統を反映していますが、中国の吉祥文様が混在し、ヒンドゥー神話の

描写に曖昧さが見られることから、地元の中国職人が石刻を担当した可能性もあります。

1. 悪戯がすぎて臼に縛りつけられた少年クリシュナがその臼を引きずり木を倒す。
2. 湖に住むカーリヤ竜(毒蛇)に攻撃されるも、鎌首の上に飛び乗って踊るクリシュナ。
3. 川で遊ぶ牛飼娘たちの衣服を木の上に持ち去るクリシュナ。
4. チャーヌーラとムシュティカという巨人レスラーに挑まれるクリシュナと兄バララーマ。
5. 湖でワニに脚をかまれ、蓮の花を高く掲げてヴィシュヌ神に助けを請う象ガジェンドラ(呪われた王インドラデュムナ)。
6. 破壊の神シヴァの一面を象徴するバイラヴァ(畏れるべき者)。四臂の持物は右手に太鼓と三叉戟、左手には蛇と罎鉢杯。これは南インド、特にタミル地方で多く見られる図像。
7. 二羽の鳳凰が円を成して飛翔する「双鳳凰円文」。遼や南宋の錦に類例が知られる吉祥文。
8. 二匹の獅子が刺繍で飾られた球で遊ぶ「獅子滾繡球」。宋代に人気が高まった吉祥文。

これらは、今秋開催する企画展で初公開されます。



4.



5.



6.



7.



8.

中国 元 13~14世紀 径27.0 cm
China. Yuan. 13th-14th century.
D 27.0 cm

These roundels recently added to the Egami Collection of YMEAC are rubbings taken from low-relief images on the stone pillars at the Kaiyuansi temple, Quanzhou.* The South Indian *citrakhandas* pillars with Hindu motifs, numerous Hindu carvings unearthed in the city, their choice of architectural material and construction techniques echoing the Tamil tradition, and the stone inscription dated 1281 with a Tamil name as the donor of a Shiva image (Quanzhou Maritime Museum), all testify to the Tamil merchants' active involvement in the religious and artistic scenes of Quanzhou.

The Kaiyuansi pillar images added to our Collection are as described below, with an interesting mixture of Hindu and Chinese themes and slight misinterpretations of the former, which may be ascribed to the hands of local Chinese sculptors working for the Tamil patrons.

1. Krishna, tied to a mortar by his mother who tried to stop his pranks, pulls down a tree by dragging the heavy mortar.
2. Krishna dances over the poisonous snake Kaliya which attempted to strangle him.
3. Krishna awaits in a tree hiding the clothes of cowgirls bathing in the river.
4. Krishna and his brother Balarama fight hand to hand with giant wrestlers.
5. The elephant Gajendra (King Indradyumna under a curse) being attacked by a crocodile holds up a lotus and cries out to Vishnu for help.
6. Bhairava (ferocious aspect of Shiva) with a serpent and skullcup in his left two hands, and a drum and trident in his right hands.
7. Phoenixes chasing each other in a circle, a motif also seen in Liao and Song textile designs.
8. Two lions playing with embroidered ball, a motif which became popular during the Song dynasty.

*開元寺については、「ナリスィンハー泉州開元寺のヒンドゥー神像—(横浜ユーラシア文化館ニュース 22, 2015年3月)を参照。
For Kaiyuansi, see "Nrisimha: A Hindu Deity from Kaiyuansi Temple, Quanzhou," *News from EurAsia* 22, March 2015.

主要参考文献 References

呉文良原著、吳幼雄増訂 『泉州宗教石刻(増訂本)』北京: 科学出版社、2005

Lee, Risha. 2012. "Constructing Community: Tamil Merchant Temples in India and China, 850-1281." Columbia University Academic Commons.



1.



2.



3.

The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

蔵品紹介—常設展示室から—

竹田多麻子 Tamako Takeda

不思議な文様が描かれているこの陶器。イラク・イランなどの西アジアと中央アジア一帯を支配したセルジューク朝の時代(1038-1194年)に製作されたものです。まるで鳥のようにも見えるダイナミックな文様は、アラビア文字を様式化したもので、その周りには蔓草の装飾が施されています。

緑色の濃淡によって文様が少し浮き出ているようにも見えますが、搔落^{かきおとし}という装飾技法が使われています。胎土に白いスリップ(化粧土)を全面に施した後、文様以外の背景となるところは表面を削り落としてしまい、それから、緑釉をかけ焼成します。そうすると、文様部分は白いスリップがかかっているので、釉の緑色が明るくなり、削られた部分は胎土の赤茶色と釉葉の緑色が合わさり濃い緑色になります。この地域の陶土は焼成すると赤茶色になるのが特徴ですが、搔落技法はこの特徴を効果的に使っています。

このような技法を用いた陶器は、主にイラン北西部クルディスタンのガルス地方で見つかり、ガブリ手陶器とも呼ばれています。

This fascinating pottery decorated by the technique *sgraffito* (in Italian "to scratch") was manufactured during the Seljuk period (1038-1194) which ruled the medieval West Asia (Iraq, Iran) and Central Asia.

Inside the bowl, there is a stylized Arabic alphabet which looks like a bird with vines around it. This design was made by scratching the surrounding area through the white-slip to reveal the red body beneath, applying green glaze, and firing, which left the main motif with a lighter hue of green than the background. Pottery of this type is so-called Gabri ware mainly found in the Garrus district of Kurdistan in northwestern Iran.



緑釉搔落文鉢

イラン北西部ガルス地方

11~12世紀

口径17.3 cm 高7.7 cm

Bowl with Sgraffito Design Covered with Green Glaze

Garrus, Northwestern Iran

11th-12th century

D. 17.3 cm H. 7.7 cm

The YMEAC Collection: Recent Additions [April to July 2015]

蔵品紹介 —新収蔵資料—

2015年4月から7月までにご寄贈頂きました資料をご紹介します。ご寄贈いただきましたみなさま、ご寄贈いただくに当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。なお、出版物につきましては、点数が多いため本誌ではご紹介しておりません。整理が終り次第、熟覧に供する出版物はインターネットの目録に掲載し、学習教材として受贈いたしました出版物は、2階展示室内ライブラリーでご利用いただけます。どうぞご利用ください。

※ライブラリーの図書は入れ替えがありますのでご了承ください。
(敬称略)

収蔵番号 YMEAC-15-0011~0013

青銅鏡

点数 3点

地域 中国

寄贈者 林裕己



銘帯同向式神獣鏡
中国 後漢 1-2世紀
Bronze Mirror
China, Eastern Han dynasty.
1st-2nd century.
Donated by Hiromi Hayashi

収蔵番号 YMEAC-15-0001~0010

西南中国の民族資料など

点数 10点

地域 中国、東南アジア

寄贈者 渡部武・順子



竹製手提げ籠
中国四川省 1980年代
Bamboo Basket
Sichuan, China. 1980s.
Donated by Takeshi Watabe



女性用下衣(スカート)
ラオス 20世紀末
Skirt
Laos. Late 20th century.
Donated by Junko Watabe

収蔵番号 YMEAC-15-0014~0018

鉄道乗車券、写真アルバムなど

点数 5点

地域 中国、ブータン、トルクメニスタンなど

寄贈者 祖父川精治



鉄道乗車券(北京西—拉薩、蘭州—敦煌)
中国 2007年、2010年
Railway Tickets
From Beijing to Lhasa, China (2007). From Lanzhou to Dunhuang, China (2010).
Donated by Seiji Sofukawa

収蔵番号 YMEAC-15-0021, 0022

陶器 皿、鉢

点数 2点

地域 ウズベキスタン

寄贈者 アブドゥッロ=ナルズラエフ



皿、鉢
ウズベキスタン ギジドゥヴァン窯 2010年代
Dish, Bowl
Gijduvan, Uzbekistan. 2010s.
Donated by Abdullo Narzullaev

収蔵番号 YMEAC-15-0019, 0020

陶器 浅鉢、口琴

点数 2点

地域 ウズベキスタン

寄贈者 横山裕平



浅鉢
ウズベキスタン リシュタン窯 2000年代
Dish
Rishton, Uzbekistan. 2000s.
Donated by Yuhei Yokoyama

収蔵番号 YMEAC-15-0023

敦煌、雲崗石窟など記録写真

(画像データ) (1993、1996年)

点数 979点

地域 中国

寄贈者 石原光



雲崗石窟
Yungang Grottoes
Photograph by Mitsu Ishihara

企画展 3F

ユーラシア 筆の軌跡 —江上コレクションを中心に—

Traces of the Brush: From the Egami Collection with Recent Additions

2015年10月3日(土)～10月25日(日)

Saturday 3 October to Sunday 25 October 2015

当館所蔵の江上コレクションから東西の「筆」が遺した様々なかたちを展示。新しく加えられた資料も初公開します。

会場 3階企画展示室(一部)
Thematic Exhibition Gallery
観覧料 一般 200円 小・中学生 100円
Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students



刑徒墓碑(拓本) 中国 後漢 107年
Epitaph from Eastern Han Criminal Cemetery, China.
Dated 107. (Rubbing)

ギャラリートーク

10/11(日)、10/25(日) 各日 14:00から 各回 1時間程度
参加費 企画展観覧料のみ

岩に刻まれた古代美術—アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン

Ancient Rock Arts on the Amur River Basin: A Sacred Place of the Indigenous People, Sikachi Alyan

2015年10月31日(土)～2016年1月11日(月・祝)

Saturday 31 October 2015 to Monday 11 January 2016

アムール流域のシカチ・アリヤン村。その川岸に点在する岩画と呼ばれる遺跡と、遺跡を守って暮らす先住民ナナイの人々の生活を、拓本や伝統的な工芸品からご紹介します。

会場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料 一般 300円 小・中学生 150円
Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students



シカチ・アリヤンの岩画 Petroglyph at Sikachi Alyan

ギャラリートーク

日時 11/4(水)、11/18(水)、12/2(水)、12/16(水)、1/6(水) 各日 18:00から
11/8(日)、11/22(日)、12/6(日)、12/20(日)、1/10(日) 各日 11:00から
各回 30分程度
参加費 企画展観覧料のみ

ワークショップ

岩面缶バッジを作ってみよう!

企画展「岩に刻まれた古代美術—アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」を見学したら、岩面をイメージしてオリジナルの缶バッジを作ってみませんか。自分で絵をかいて、色をぬってもOK!

日時 企画展開催中の土曜日、日曜日、祝日 9:30～16:30
料金 1個200円



講演会

古代美術と生きる人々(仮題)
アムール河の先住民ナナイの神話とアート

講師 佐々木史郎(国立民族学博物館教授)
日時 12月13日(日) 14:00～15:30(受付13:30～)
会場 情文ホール 横浜情報文化センター6階(当館に隣接)
受講料 500円(企画展招待券付)
定員 200名(申込み多数の場合は抽選)
申込み方法 住所、氏名(フリガナ)、電話番号を明記の上、往復はがき、または当館ウェブサイトからお申込みいただけます。
申込み先 〒231-0021 横浜市中区日本大通12
横浜ユーラシア文化館
企画展「岩に刻まれた古代美術」講演会係
申込み締切 2015年12月1日(火) 必着

特別公開 2F

エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶

A Glass Bottle with Cut Decoration from Fustat, Egypt

2015年9月1日(火)～9月27日(日)

Tuesday 1 September to Sunday 27 September 2015

フスタート遺跡から出土したガラス瓶を特別公開。合わせて、「フィルター」と呼ばれる飲料用水壺の内側につけられた透かし彫り装飾も紹介します。

会場 2階常設展示室(一部)
Permanent Exhibition Gallery
観覧料 一般 200円 小・中学生 100円
Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students

関連講座

エジプト・フスタート遺跡出土品にみる水にかかわるイスラームの美の世界

講師 真道洋子
(早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員)
日時 9月27日(日) 14:00～15:00
会場 1階ギャラリー
参加費 200円
定員 30名(先着順)



カット装飾ガラス瓶
10～11世紀 早稲田大学蔵
Glass Bottle 10th-11th Century
Owned by Waseda University

作品展 1F

Eurasian Art Craft展
by choko nakazono

2015年10月3日(土)～10月25日(日)

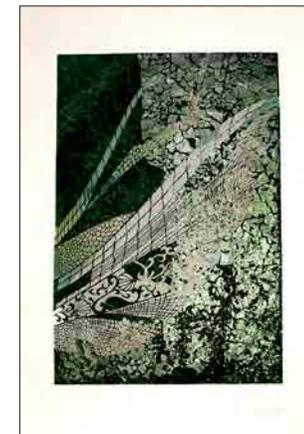
Saturday 3 October to Sunday 25 October 2015

ユーラシアのさまざまな文様にインスパイアされたオリジナル文様。自ら染めた和紙。独自のカットイング技法。この3つが織りなす中その蝶子氏の作品世界をお楽しみください。

会場 1階旧第1玄関 Former Entrance Hall
観覧料 無料 Admission Free

ギャラリートーク

講師 中子の蝶子
日時 10月17日(土) 15:30～16:30
参加費 無料



「tribute」 2015年3月制作

月イチ講座 学芸員が語る、月に一度気軽に聴けてためになる30分

8/22(土) 仏教美術の魅力 III

本シリーズの最終回は、平安～鎌倉時代に迫ります。

講師 福原庸子(当館主任学芸員)

9/26(土) 館蔵ガラス資料 IV

館蔵のガラス資料を中心に、イスラーム時代のガラスの魅力を紹介します。

講師 竹田多麻子(当館学芸員)

定員 30名(先着順)
参加費 200円
時間 14時から30分程度
会場 当館1階ギャラリー

*当日は常設展示を無料でご観覧いただけます。
*2015年10月から翌3月の月イチ講座は横浜都市発展記念館の担当です。こちらも是非おいで下さい。
詳細はホームページでどうぞ!

臨時休館のお知らせ 展示替えのため、平成27年10月29日(木)、30日(金)常設展示室は休室いたします。